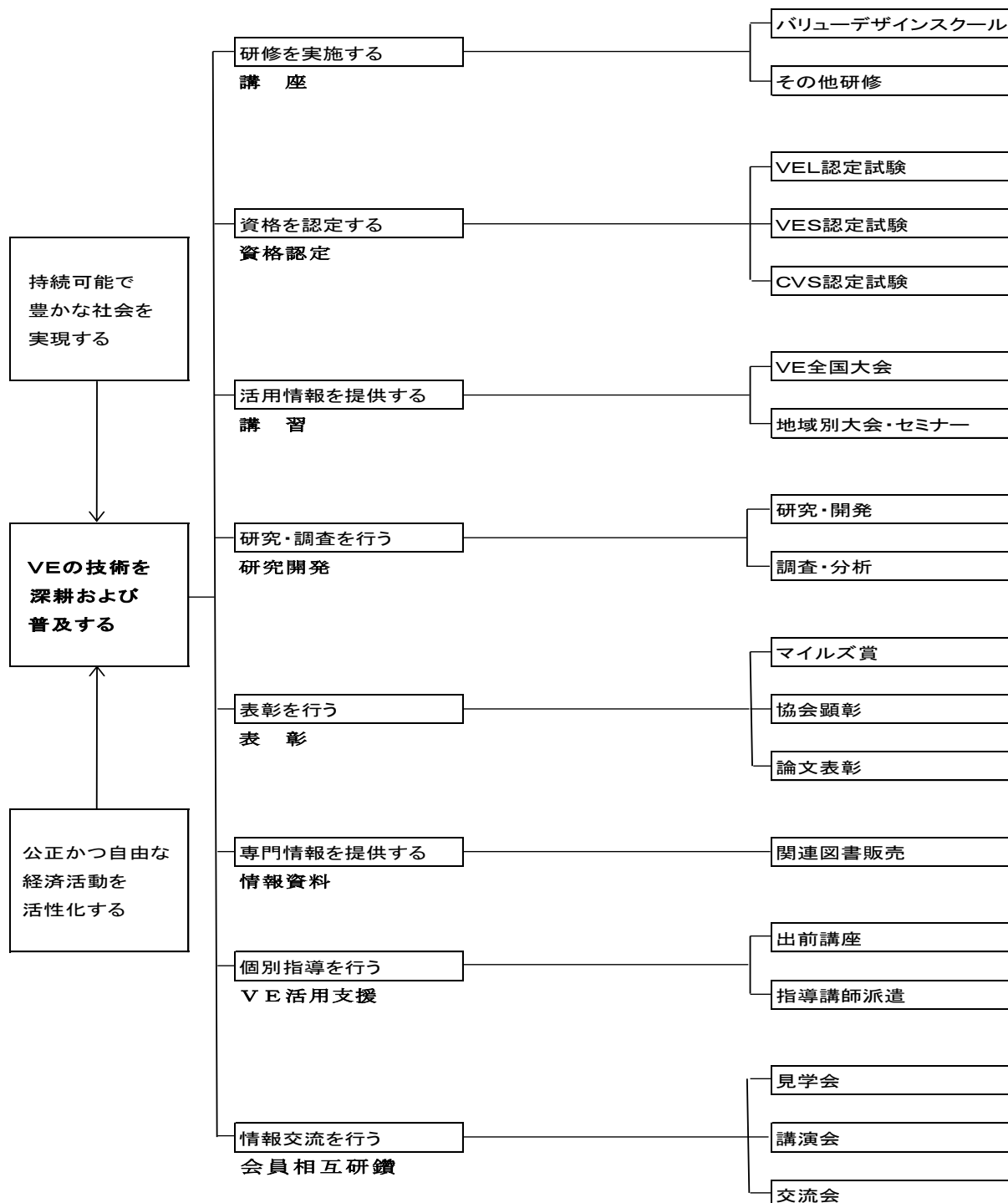


2018年度 事業計画書

(2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで)

2018年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) VE技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



1. 講座

ここでは、次世代のVEリーダー育成を目的に、基礎知識の講義と活用手順の演習をあらゆる業種・職種の人や学生を対象に行うVE初級コースや、実務での活用・実践力を備えたVE専門家の育成を目的に、開発設計VE等の講義・演習をVEリーダー（VEL）有資格者又はVE基礎コースと同等の内容を学んだ人を対象に行うVE中級コース等がある「バリューデザインスクール」、VEの実践を担える人材の育成を目的に、VEの概要をまず知りたいという人やVEの導入・実践を考えている人に対してその人達が職場で実際に抱えている問題や課題でVEのワークショップを行う「VE塾」等を開催する。

※ 以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）及びVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

1) バリューデザインスクールの開催

(1) VE初級コース

VEの予備知識がない誰もが基礎から学べる講座として、「製品改善ワークショップ」を6回、「業務改善ワークショップ」を1回、「VEL受験対策講座」を2回開催する。

※ 以上3講座は、受講・修了によってVEL認定試験の受験要件を満たせるものとする。

(2) VE中級コース

VE基礎コースの修了者又はVEL有資格者を主な対象に、次の講座を開催する。

講座名	開催日	会場
業務革新のためのソフトVE	5月17日～18日	日本VE協会
会議力を高める創造カトレーニング	6月 7日～ 8日	
事業戦略をデザインする企画段階のVE	6月18日～19日	
価値の高い企画書を導き出す製品企画のVE	7月12日～13日	
思考の基礎を体系的に学ぶ考えるスキルの基本	7月23日	
独創的なアイデアを生み出すTRIZをVEで活用する方法	8月 3日	
開発設計のVE	9月 3日～ 4日	
提案を実行する技術プロジェクトマネジメントの基本	9月10日	
VEブラッシュアップ	9月25日、26日 及び10月 9日	
社内研修効果を高めるインストラクション技術	10月 2日	

(3) VE上級コース

米国VE協会のモジュールIIセミナーに相当し、CVS認定試験の受験要件を満たせるものとして、4講座を開催する。

講座名	開催日	会場
VEチームを価値創造集団へと導くファシリテーション力	7月11日	日本VE協会
経営者を納得させるVE提案書の書き方	7月31日	
VEの原点的思考（機能分析中心）	8月24日	
VEを組織的に適用するためのマネジメント	9月12日	

2) その他研修会等の開催

(1) 「VEの基礎」通信講座の開講

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEL資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

(2) 西日本支部（中四国・九州地区）でのVE塾の開講

VE塾という名称のVEワークショップ・セミナーを広島及び九州の両地区で開催し、その成果を発表会で公表する。

(3) 西日本支部（東海地区）でのVE技術情報交流会の開催

VEやVE関連技法、話題の改善技法等をテーマに演習（ワークショップ）とディスカッションを行い、参加企業での導入・展開を支援する。

(4) VEコンサルタント養成講座の開催

社内外に関わらず実践活動での指導や自社テーマを用いた研修ニーズに対応するため、“VE視点に立ったコンサルティング”のできるコンサルタントを養成する。

(5) CVSによるVE技術者育成支援

「CVSフォーラム」において、VE技術者の育成を支援するための活動を行う。

(6) 「経営者フォーラム」の開催

経営者層にVEを理解し組織でのVE活用を促進してもらえるようにするための「経営者フォーラム」を、理事会と同じ日に3回開催する。

(7) テーマ別VE関連セミナーの開催

次の講座のほか、原価企画やモジュラーデザイン等のセミナーを必要に応じて随時開催する。

講座名	開催日	会場
短時間でできるWAVE法入門	11月12日	日本VE協会
VE全国大会論文に入選するための論文の書き方	12月17日	
1日でわかる改善マインド入門	3月1日	

(8) 公共機関でのVE技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国設計VE推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのVE技術者育成を支援する。

(9) 教育機関におけるVE導入促進と普及

大学でのVE教育を支援するほか、ESD (Education for Sustainable Development) やPBL (Project Based Learning)、AL (Active Learning) へのVE導入促進を図る。

2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行う。

また、有資格者を対象とした継続教育のための冊子「バリュー・エンジニアリング」誌（電子版）の無料配付や、VEに関する知識及び技術水準等向上の機会提供を目的に、VES又はCVSの活動分野や活動内容等を情報公開（希望者のみ）するデータベース「VE専門家検索システム」の運用も行う。

1) 資格認定制度の整備・体系化

米国VE協会が予定している“CVS資格認定制度改定”についての情報を収集し、対応方法を検討する。

2) 資格認定試験の実施

第45回 VEL 認定試験	4月18日～ 7月31日【CBT方式】
第46回 VEL 認定試験	9月1日～ 2月28日【 ” 】
第21回 VES 認定試験	12月1日
第39回 CVS 認定試験	10月20日

※ 上記のほか、タイ、中国、韓国でVEL認定試験を実施し、その他海外での同試験実施のための調査・準備を行う。

3) V E L 有資格者の継続教育

V E L 有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

4) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

V E L (A登録者)、V E S、C V S 有資格者のV E 技術水準の維持・向上を主目的に、V E 活動事例やV E に関する研究成果等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌の電子版を編集し、年4回発行する。

5) V E 専門家の紹介

協会Web Site内に「V E 専門家検索システム」を設け、同システムへの登録を希望するC V S・V E S 有資格者を広く一般に紹介する。

6) 更新登録の実施

V E L、V E S、C V S 登録者の更新登録 (V E L・V E S は終身登録を含む) を行う。

3. 講 習

ここでは、V E 活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、V E に興味がある人やV E L 等の有資格者、学生等を対象とした「V E 全国大会」、V E 関西大会等の「地域V E 大会」、及びV E 阪神セミナー等の「V E セミナー」を開催する。

1) 「第51回V E 全国大会」の開催

会 期	10月23日～24日【2日間】
会 場	アルカディア市ヶ谷

2) 地域V E 大会の開催 (西日本支部 関西地区、中四国・九州地区)

大会名	開催日	開催地
第50回 V E 関西大会	2月26日	大阪府大阪市
第62回 西日本V E 大会	9月14日	広島県安芸郡

3) V E セミナーの開催 (西日本支部 関西地区)

セミナー名	開催日	開催地
V E 阪神セミナー	7月25日	大阪府大阪市
V E 京滋セミナー	11月16日	京都府京都市

4. 研究開発

ここでは、VEの適用領域拡大を目的に、学識経験者及び企業人が不便益という新しい視点に着目することで革新的なVE/VM領域の確立を目指す不便益&VE研究会等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部建設VE研究会等の「専門研究会」を設置する。

1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

- (1) 「不便益&VE研究会」を設置。不便益という新しい視点に着目して、使用機能でも魅力機能でもない第3の機能“不便益機能”を提唱し、不便益による価値創造、革新的なVE/VM領域の確立を目指す。
- (2) 米国VE協会が主催するVE国際大会に参加し、米国など海外諸国の研究動向について情報収集を行う。

2) 各支部での実務的研究の推進

(1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に6つの機能別部会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート(VE資料)等で広く公表する。

① マネジメント部会	② VE推進部会	③ マーケティング部会
④ R&D部会	⑤ ものづくり部会	⑥ 社会インフラ部会

(2) 専門研究会での研究活動

西日本支部の東海地区と関西地区に専門研究会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート(VE資料)等で広く公表する。

東海地区	① 中部建設VE研究会
関西地区	① つかいやすいTRIZ研究会
	② 経営革新を生み出す生き生きVE研究会
	③ VEツール研究会
	④ サービス領域でのVE適用方法研究会
	⑤ 価値分析研究会
	⑥ リーンシックスシグマとのシナジー研究会
	⑦ 原価企画の問題解決研究会

3) プロジェクト形式での研究・検討

(1) 公共事業におけるVMの研究及び普及促進検討

「公共事業のVM研究会」において、公共事業の発注者がVEの段階別適用やVE活用のための人材育成及び組織作りについての研究を行うとともに、公共事業でのVE普及を促進するための施策検討や情報発信等を行う。

(2) AL (Active Learning) へのVE適用研究

「ALへのVE適用研究会」において、小学校から大学（大学院を含む）までの教育プログラムにVE的アプローチを導入できるようにその進め方を研究し、教育現場での実証につなげる。

5. 表彰

ここでは、資源の有効活用による持続可能な社会の実現に向けたVE活用促進の奨励を目的に、VE活動で顕著な成果を挙げている企業又は団体の部門又は事業部門等を対象とした「マイルズ賞」、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるVE活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、VE技術水準の向上とVE活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「VE研究論文及びVE活動事例」の審査と賞の授与を行う。

1) 「マイルズ賞」の審査・授与

次の各賞について、応募のあった企業又はその事業部門、自治体など公共団体の審査をマイルズ賞規程にもとづいて行い、その結果授賞が決定したところの授賞式を「第51回VE全国大会」で行う。

- ① マイルズ賞
- ② マイルズ賞本賞
- ③ マイルズ賞特別賞

2) 協会顕彰の実施

次の各賞について、顕彰規程にもとづき、VEの研究開発や普及促進等について功績を挙げた個人や団体等に「第51回VE全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（VE経営者賞、VE功労賞、VE国際功労賞、VE特別功績賞、VE学術功績賞、普及功労特別賞、VE活動優秀賞）

3) VE研究論文及びVE活動事例の審査・表彰

VE研究論文及びVE活動事例を「第51回VE全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文及び事例の審査を「論文審査委員会」で行い、その結果入選となったものの表彰・発表を同大会で行う。

6. 情報資料

1) 研究成果の資料化

「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査や、各支部での実務的研究の成果をV E資料として纏め、公表する。

2) V Eテキスト・教材・関連資料等の発行

- (1) 「第51回V E全国大会」V E研究論文集・資料集、V E普及のための図書等を発行するほか、ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、V E LバッジなどV E実施や推進のためのアイテムを販売する。
- (2) 期間限定のキャンペーンや無料サンプル配布を随時企画し、上記図書等やアイテムの販売を促進する。

3) V Eテキスト・関連資料等の翻訳・発行

- (1) 講座テキストやV E資料等を英語、中国語、タイ語、スペイン語等に翻訳し、発行する。
- (2) 特に中国語版については、上海V E協会の協力を得て、V E解説書の『利益を生み出す方程式』などV E関連の資料図書を発行する。
- (3) 米国V E協会の新しい標準テキストに相当する「Facilitation at a Glance」を日本語訳し、販売する。
- (4) 海外でのV E L受験者を増やすため、「V E L認定試験問題集」を英訳し、販売する。

4) V E関連書籍・資料・教材等の販売

V Eの学習及び研究、普及促進に資するため、V E関連専門図書を仕入れて販売する。

5) V E研究論文のネット販売

協会Web Site内に開設したV E論文検索・購入サイト「V E論文navi」で電子化した過去のV E研究論文を販売する。

7. VE活用支援

1) 日本国内における出前講座の実施及び指導講師の派遣

企業・団体等からの要請に応じて出前講座を実施、又は指導講師を派遣し、V Eの個別指導、コンサルティング等を行う。

2) 海外でのV E教育支援

- (1) A O T S（一般財団法人海外産業人材育成協会）等、海外の人材教育支援の関係団体と連携し、現地の人材育成事業におけるV E関連の指導を積極的に支援する。
- (2) 上海V E協会が開催する中国でのV E研修等を支援する。
- (3) 韓国国内において(株)韓国V Eコンサルティング等が開催するV E研修（V E L受験資格要件を満たすもの）の実施等を支援する。
- (4) その他アジア諸国（マレーシア、タイ等）を中心に現地提携先を検討し、V Eの活用支援事業を海外に展開する。

3) V Eワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定

企業や団体が主催するV Eワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がV E S認定試験の受験要件であるV E学習経歴を満たせるようにする。

8. 会員相互研鑽

1) 見学会・講演会等の開催

各支部において各種の見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、V Eに関する情報交流を行う。

9. 広報活動

1) メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「V E情報メール」を毎月1回発行し、V Eや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などP R活動にも積極的に利用する。

2) 協会Web Site等による情報発信

- (1) 協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、V Eや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、ブログやFacebookと連携させることで、発信力の強化を図る。
- (2) 協会Web Siteに東日本支部専用のページを開設し、同支部の部会活動における迅速かつ効率的な情報発信を図る。
- (3) 「バリューデザインスクール」開講にあたり、広く一般からの参加を促すため、専用のウェブサイトを立ち上げる。

3) 国土交通省 i-Construction 推進コンソーシアムへの参加

国や自治体・大学等の有識者、建設関連業界、I o Tやロボットの研究者等で構成されるi-Construction推進コンソーシアムにV E 専門家を派遣し、V E の活用を働きかける。

4) インフラメンテナンス国民会議への参加

国が支援し、自治体、企業、研究機関、N P O等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に会員として参加し、情報収集とともにV E 活用促進に関する情報発信を図る。

5) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合ったり、P Rに協力、参加費の割引を行ったりする等して、V E の普及促進を図る。

10. 会 議

1) 定時総会の開催

第8期 定時総会	6月14日
----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

2) 理事会の開催

第24回	第25回	第26回	第27回
5月17日	6月14日	9月 4日	3月15日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

3) 「本部企画委員会」の開催

理事会に合わせて、年度内に1~2回開催する。

以上